

西区史談会 会報

2025年4月号

西神ニュータウン研究会部会

■第4回西区史談会例会記録

- ・日 時 2025年3月19日(水) 18:30~20:30
- ・場 所 西区文化センター 会議室3 ・参加 16名
- ・テーマ 明石の中世史(その2) ~城館・合戦記から見た明石~
- ・講 師 木村 英昭氏(明石史話研究会 会長)



■講演内容

◆明石氏の城

- ・本流である明石川に伊川、櫛谷川の支流が合流する明石地方(明石市・西区)の地は、穀倉地帯であった。
- ・この地域には、江戸時代に明石城があった。明石城は、家康のひ孫小笠原忠政が築いた城で、その前には船上城があり、さらにその前には枝吉城があった。
- ・枝吉城の城主は、明石氏で、その祖は玉造庄の松本・菅野にあった。松本・菅野はその後、櫛谷庄(村)に含まれることになって今に至っている。
- ・松本には「岡辺の館(岡之屋形)」があったと言われ、櫛谷川を挟んだ西側には明石氏の居城菅野城があった。櫛谷川は今よりもっと西側を流れていた。
- ・明石氏はその後、下津橋に城を築き、さらに枝吉(しきつ)城を構えた。
- ・枝吉城にあった本家の明石氏は、天正13年(1585)豊岡に転封となるが、文禄4年(1595)の秀次事件に連座して切腹させられ、家は途絶える。
- ・同族系である備前明石氏は船坂峠から備前に入ったあたりに城があった。後に、黒田官兵衛の客人として博多に移っている。
- ・「太山寺山城」は、南北朝時代に築かれた城であろう。太山寺の裏山にあって、布施畑から伊川の谷平野に進入する位置にある。
- ・南北朝時代には、城のうしろは南朝、明石側は北朝であった。
- ・「明石記」の図には「京口峠」の名がみえる。京に行く方向と意識されていたのか。



◆「合戦」から見える明石地方について

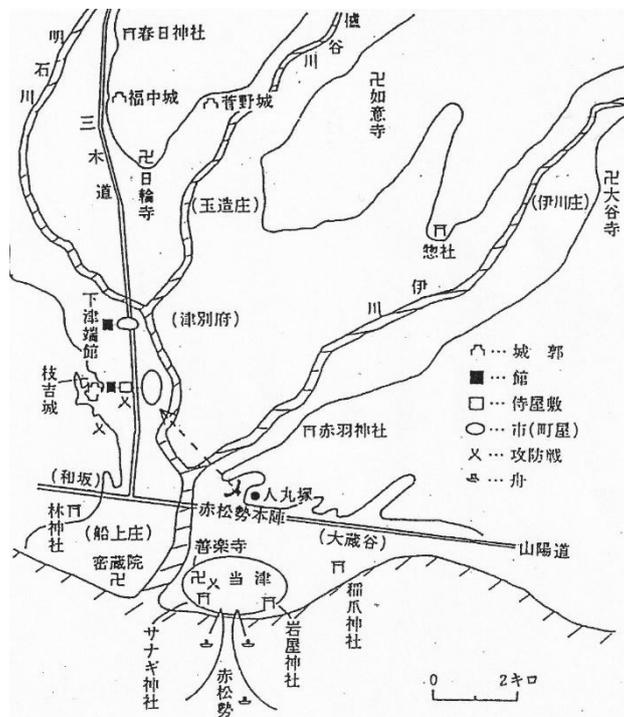
- ・明石地方に伝わる合戦としては、和坂合戦・枝吉合戦・三木合戦が有名である。
- ・「和坂(カニガサカ)合戦」とは、嘉吉元年(1441)、播磨・備前・美作の守護であった赤松満祐が第6代将軍足利義教を殺害した後、幕府の満祐追討軍と戦った「嘉吉の乱」において主戦場となった和坂における、7月下旬から約一か月にわたる一連の攻防戦である。
- ・赤松満祐は、将軍義政の首をはねた後、三木から志方の道を通って姫路に帰ってきた。
- ・追討軍は、兵庫津から塩屋さらに人丸塚に進んで来た。
- ・その間、7/25「兵庫・庫御所夜襲」(満祐軍が襲撃するも敗れる)、8/19「明石・塩屋関襲撃」(追討軍襲撃、満祐軍敗れる)、8/19「人丸塚・蟹坂の戦い」(追討軍人丸塚に陣す)、8/24「人丸塚の戦い」(追討軍破れ須磨まで撤退)、8/25「満祐軍一斉攻撃、追討軍敗れる、8/26「人丸塚の戦い」追討軍反攻するも不利に推移、といった攻防が続いた。
- ・満祐軍はこれらの戦いでは有利にあったが、但馬口が破られたため、明石から姫路まで退き、和坂合戦は終わった。



・「**枝吉合戦**」とは、天文年間(1532-55)に尼子氏や三好氏ら外来勢力の播磨進攻により、枝吉城を軸に明石川の地が二度にわたって大規模な合戦の場となった戦いである。

・「**第一次枝吉合戦**」 右図参照

- ・最初の合戦は、天文8年(1539)にあった。
- ・天文7年(1538)、播磨に進攻してきた山陰の戦国大名尼子晴久に従っていた明石氏や小寺氏が、高砂城にあった守護赤松政村を攻め、淡路に敗走させた。
- ・翌天文8年(1539)、赤松は四国の守護細川持隆の援を受け、岩屋より明石表に上陸、人丸塚に陣を置き、明石長行・祐行父子の居る枝吉城を攻めた。
- ・当時、枝吉に町があり、明石にも町があつて、両方が城下町であつたが、両町はこの時焼かれた。
- ・この戦いで、明石父子は降参したが、御赦免となつた。



・「**第二次枝吉合戦**」

- ・天文 23 年(1554)には、畿内を制圧した三好長慶が丹波・播磨に攻撃を仕掛けてきた。畿内から追放した細川春元に属していた明石左京亮祐行の居る枝吉城を攻撃し、数か月にわたって明石川沿いの地で大規模な合戦が行われた。
- ・人丸塚と大山寺(今は太山寺と書く)が三好方の陣となつた。長慶は大山寺に陣をとつた。
- ・三好勢の大軍に囲まれた明石祐行は敗れるが、その後和睦している。
- ・この進攻で、日輪寺、大谷寺が焼かれた。その後、日輪寺は少し南の現在地に再建、大谷寺は今より北東にあつたが現在地に再建されている。

関連する城のおおむねの位置図

- ・「**三木合戦**」は、天正 6 年(1578)3月から同8年1月にかけて、播磨の地を舞台に繰り広げられた、毛利輝元を後ろ盾とする三木城主別所長治と織田信長方の羽柴秀吉を総大将とする軍勢との闘いである。
- ・秀吉軍は最初、直接三木城を攻撃するも攻めきれず、周辺の城の攻撃を始めた。
- ・三木城の周りには約40もの付城とそれらを結ぶ多重土塁を築き、人・武器・食べ物が入らないように取り囲んだ。「三木の干殺し」といわれている。(多重土塁は国の重要文化財になっている。)



- ・周辺では、加古川方面の野口城(4月中頃)・神吉城(7月中頃)・志方城・中道子山城が次々と落城した。
- ・同7年5月下旬には、丹生山海蔵寺城を乗っ取り、淡河城を開城させている。
- ・明石では、戦略上の位置にあつた端谷城で、別所方の衣笠範景と織田方との間で端谷城合戦が行われ、また、別所勢と池田輝政との間では長坂寺山大窪合戦が行われたが、明石の中心部では戦いが無い。
- ・明石の地は合戦当初から織田方に属していたのであろう。
- ・同8年1月、城主別所長治一族の切腹で戦いは終わった。

文責: 笹原

西神ニュータウン研究会 <http://seishin-ntken.net>

西区史談会へのお誘い

西神ニュータウン研究会の部会として、主に西区を中心に地域の歴史を学ぶ西区史談会を立ち上げ、不定期ですが例会や勉強会を始めています。ご興味のある方のご参加をお待ちいたしております。